

背景・目的

尾州は愛知県一宮市、岐阜県羽島市を中心とする日本有数の繊維産地であり、現在も国内毛織物生産の約8割を占めている。

産地として栄えた理由に

木曽川がもたらす自然のめぐみが関わっている。

木曽川は水質が良く硬度の低い軟水で、染色や仕上げに適している。

一方、生産過程において発生する残布や残糸などが増加し、それらの大量廃棄が環境問題として課題となっている。

そこで尾州では毛七というリサイクルウール生地を作り、サステナブルな取り組みを行っている。

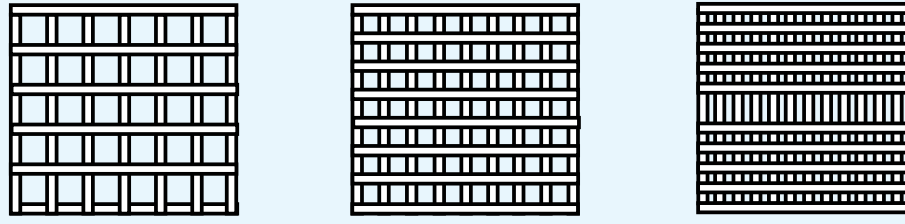
本制作でも、廃材である生地と織りを活用して、生地づくりと毛七の流れを木曽川の流れに見立てた空間を提案する。

コンセプト

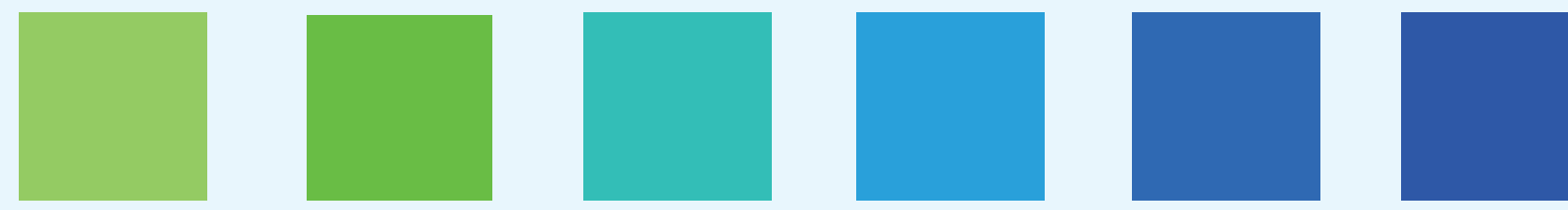
廃棄となった生地が糸になり、また生地になり、糸に戻る毛七の流れと木曽川の流れを組み合わせ、織りをういた空間演出を行う。

生地の織り方や色に変化をつけることで、視覚的・空間的な変化を生み出す。色は木曽川をもとに、緑から青へのグラデーションとした。

・織りの密度の変化



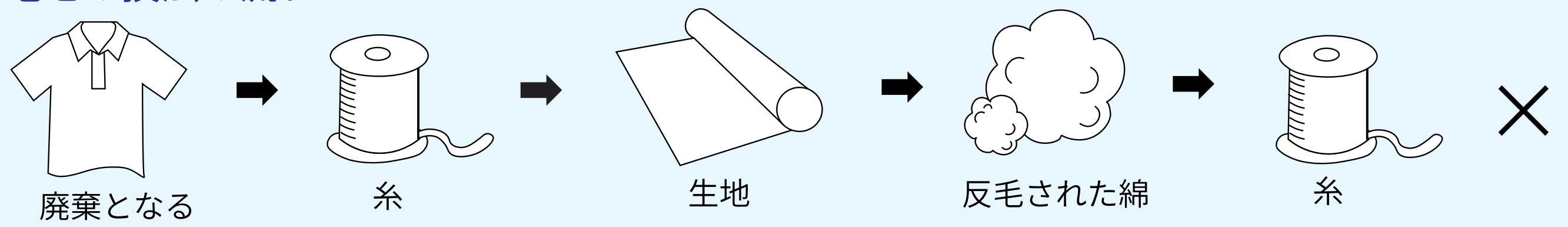
・色の変化



毛七

使われなくなった衣類を反毛し、再び繊維の状態に戻し、再利用につなげる羊毛再生技術である。ウールが7割ポリエステルやナイロンなどの化学繊維が3割で構成された混紡素材。

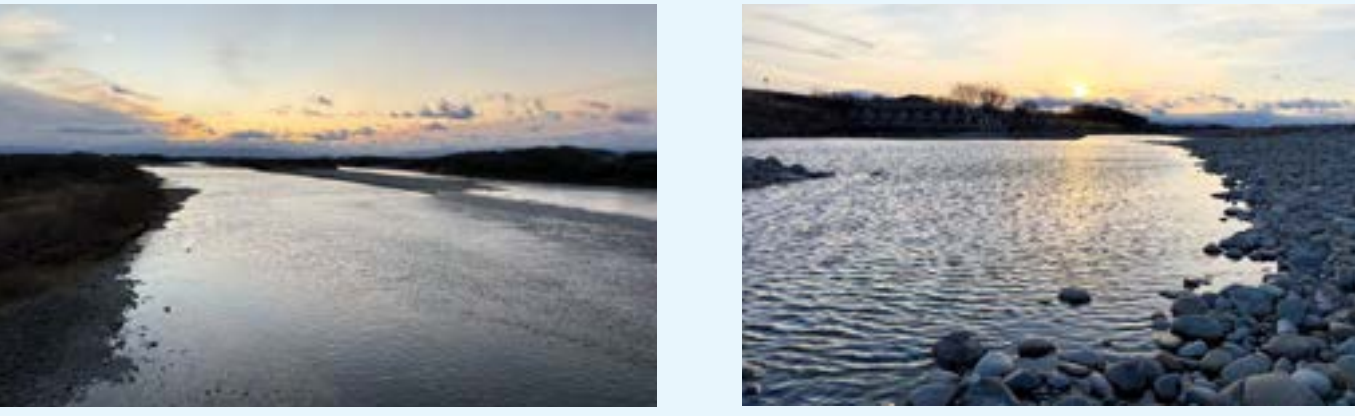
毛七の技法の流れ



木曽川

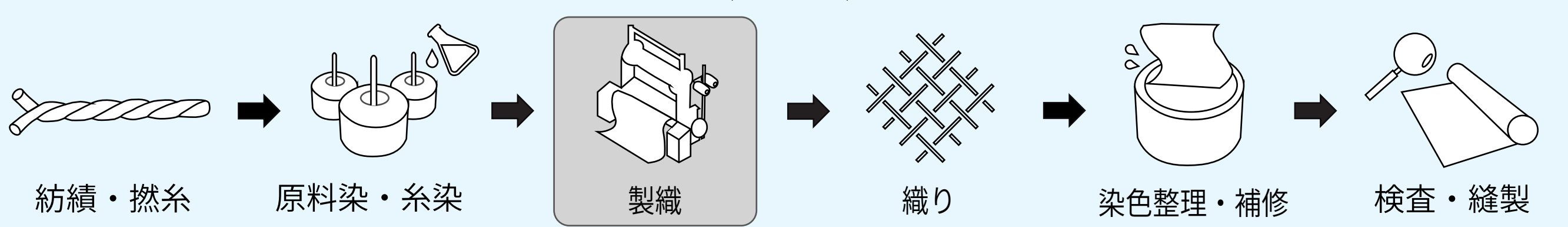
木曽三川のひとつ。長野県の鉢盛山から一宮市西側を通り、伊勢湾まで流れる全長 229 メートルの一級河川である。

木曽川の川の流れ

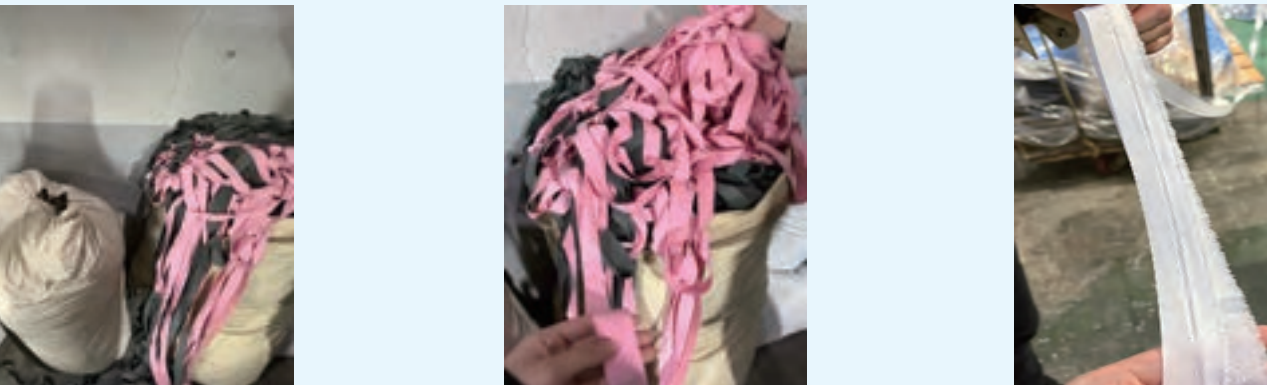


使用する廃材について

製織の工程で廃棄されてしまう幅約 50mm の生地 (捨て耳) を使用する。




本制作に用いる捨て耳は岐セン株式会社様に提供していただいた。

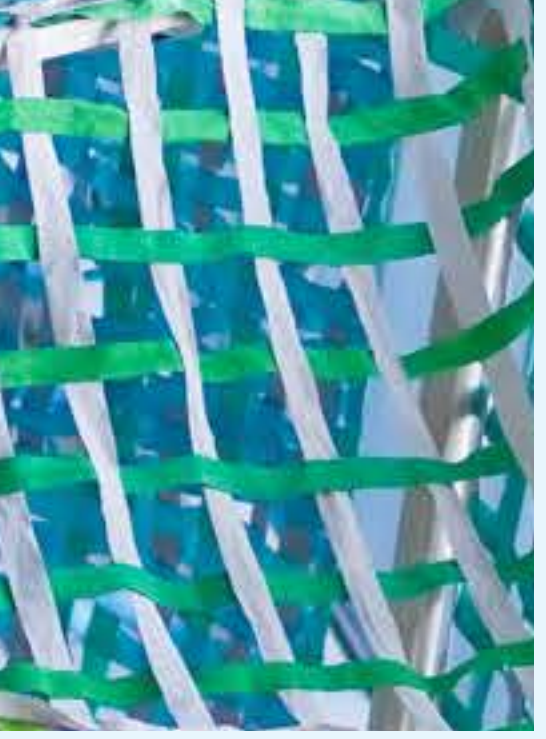





色と織りの変化




密度：低
色：緑 1




密度：標準
色：緑 2




密度：高
色：緑 3



密度：標準
色：青 1



密度：低
色：青 2



密度：標準
色：青 3

使用材料

- 幅 50 mm のピン穴生地
- 布用両面テープ
- ポプラ LVL 40 mm × 27 mm
- PLA 白
- 布用絵の具エビーパレット (わたあめ、れもん、きゅうり、らむね、あおばな、ぶるべりー)

